

山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者 藤田辰夫
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

校長会の取組について

つながり力で課題に立ち向かおう



山口県小学校長会 会長 藤田辰夫

一 教育情勢について

平成二十五年度がスタートし、一ヶ月余りが経過した。本年度は、学習指導要領の趣旨を深化充実させる三年目の大切な時期だと考えている。それぞれの学校で、昨年度の反省に立ち、より着実な教育課程の実施が行われていることと思う。

このような状況の中、国の第二期教育振興基本計画が答申され、本県においても、次期計画の教育目標である「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」の実現をめざし、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」、「質の高い教育環境づくりの推進」、「生涯にわたる県民総参加の教育の推進」の三つの施策が示された。

本県教育の質の一層の向上を図るためには、各学校において、学校の教育目標の設定や教育活動の点検・評価など組織的な学校運営に取り組み、児童、保護者、地域の実情等を踏まえ、創意

工夫しながら、夢や希望、志を育み、それを実現する力を育てる教育活動を展開する必要がある、それを期待されていると考えている。

校長先生方には経営力を高め、地域や保護者の信頼を得る学校の創造や存在感のある学校づくりが求められている。また、各市町でコミュニティ・スクールが導入され、地域との連携による学校評価や地域の教育力の活用など、今、まさに、校長の学校運営への期待はますますふくらんできている。

二 「つながり力」について

山口県の小学校における採用者数は、ここ数年増加している。今年度は百八十名余りで、今後、どの学校にも、新規採用者が着任する可能性が高くなった。

このような中で、学校の質を維持・向上させるためには、つながり力を高めるための方策が必要になる。教育技

術や生活指導などに優れた力を持つ教員が退職を迎え、今まで育んできた、学校文化の継承が難しくなる可能性が出てきている。そのためには、より確かな研修体制と組織で人材を育てる工夫が必要になってくる。

また、若い人材のお手本となれるような年配者の指導力の向上などにも取り組んでいかなければならない。

校務分掌においても、異動や退職に伴い運営面で支障が出ることが想定される。そのためには、つながり力を育てる工夫が必要になる。

それは、例えば、分掌業務の担当を複数体制にするとか、部単位で組織的に活動するとかして、専門的な知識を持つ者がいなくなっても、共同作業をしていたことで、不足していた知識を補い、業務の引き継ぎが円滑にできるシステムを作り出すことである。

さらに、学校内部が縦のつながり力とすれば、校長会は、横のつながり力である。校長同士が情報を共有し、ともに学校課題に立ち向かっていく必要がある。われわれ一人ひとりのつながり力がしっかりとしたものになれば、校長としてのリーダーシップも、より具体的に明確な形で示せると考える。

そのためには、各支部での活動が大きな柱となる。支部の共同研究は、各校の実践を共有できる場であり、学校運営の参考になるであろう。

県校長会としては、時宜を得た情報の提供や、全国的な教育情勢等を積極的に発信していきたいと考えている。また、理事会では、年間テーマを決

めて、情報交換や協議を行い、支部同士のつながりや、協議内容を支部に返すことで、県全体のつながり力を強めていきたいと考えている。

三 今後の取組について

今後、少子化により学校数が減少することが想定され、そのために県校長会の組織や予算等のあり方について協議していく必要がある。現在、「財務等検討委員会」（仮称）の立ち上げを検討しており、その委員会では今後の財務状況や校長会の組織について、意見を求めたいと考えている。

また、平成二十七年に本県引き受けの全国連合小学校長会研究協議会山口大会に向け、準備を加速していかねばならない。今現在、主会場や分科会場等ハード面の準備は整いつつあるが、研究課題や分科会の課題設定などソフト面での準備が遅れている。運営を含めて、早急に整備をしていかねばならないと思う。

特に開催年は、山口県の校長先生方だけではなく、中国各県の校長会の皆さんにも協力や支援をお願いすることになる。さらに、校長会OBの皆さんにも御尽力願うことになると思う。

今年度末には、大会大綱案を策定し、全連小の承諾をもらう必要がある、これに向け準備を加速していきたい。

以上、課題もたくさんあるが、より確かな信頼関係を築き、それぞれが組織としてしっかりと動ける校長会になるよう、皆さんと力を合わせていきたいと思う。